

種文学賞 令和六年第一回目 作品集 上卷

令和六年第一回目の種文学賞は、

・小学三～四年生の部「新しい学年になったら」

・小学五～六年生の部「はじまりの神話 step.1」

中学生の部「はじまりの神話 step.2」

というお題で作品をつのり、最終的に全十二名による力作が

そろいました。

この上巻では、小学三～四年生の部と小学五～六年生の部

の作品を発表します。

※ 執筆者の学年は令和六年三月時点のものです。

## 目次

〈小学三～四年生の部〉	
(作者)	Z
	マリオ
	麦わらぼうし
	……
	七ページ
〈小学五～六年生の部〉	
	アニ推タさん
	……
	九ページ
	オセロ
	……
	十二ページ
	かず
	……
	十三ページ
	メグ
	……
	十四ページ



## ◆ 小学三〜四年生の部 ◆

この部では、四月から新学年になった自分を想像そんざうしてもらい、楽しみなことや不安ふあんなこと、がんばりたいと思うことなどを自由に書いてもらいました。

みなさんそれぞれが、自分の思うことをゆたかに書いてくれました。どうぞごらんください。

\*\*\*\*

### 4年生になると

Z(小三)

4月から、ぼくは4年生になる。4年生になると、いろいろ新しいことが始まる。

まず、3年生の時は、運動会のリレーはグラウンド半周はんしゅう(50M)だった。だが、4年生からはグラウンド一周(100M)になる。50Mも

差がある。だから全力で走るきよりがとてもふえてしまうのでがんばりたい。

次に、ドッチボール大会のことだ。ぼくは3年生の時に、ドッチボール大会で優勝ゆうしょうしていた。4年生になっても、ぜっ対にだれか、手強い相手てこわがいるはずだ。だからそんな相手にも勝利しょうりして優勝したい。

また、4年生になると新しく宿泊学習しゅうはくがある。あわじ島に1ぱくする。今までは校外学習でねとまりしていなかったが、4年生になると、ねとまりすることになる。宿泊学習に行く目ときは家族とはなれて生活するということだそうだ。ぼくは旅行に行くときはいつも宿のふとんでねられていない。自分のふとんではないからだ。だから宿泊学習でとまる宿でねられるかふあんだ。

ここまでは学校のことだったがここからは野球やきゅうのことだ。今年の5、6月からは大事な大会が2つ始まる。その名も「スマイルカップ」と

「阪神優勝大会」だ。とくに、「スマイルカップ」は大事な大会だ。「ス

マリオ(小三)

マイルカップ」で優勝した場合、全国大会に出場することになる。

「阪神優勝大会」は上にはつながらないが、3年生のときに「チャレンジカップ」という大会で優勝しているの、これに出ることになった。

「スマイルカップ」と「阪神優勝大会」では一試合あひヒット一本打てるようにがんばりたい。

さい後に、ラジオ体そうのことだ。ラジオ体そうは毎年夏まいしの午前6時30分から始まる朝の体そうだ。全部で20日間あって、ぼくはこれまで休みなく行っていたので、今年もそうしたい。

4年生になると、去年と変わからないところもある。けれど、変わることも多くなるのでがんばりたい。

\*\*\*\*

## 4年生にむけての気持ち

ぼくは、三年生の間、親にいつもその日着る服を出してもらったり

しています。もう自分でできることなので、四年生では自分で服を出したいです。それに学校の事でもかえたいことがあります。それは、

次の日の学校の用意をしないことをたまに注意されることです。よく日曜日に外食をするので、学校の用意をわすれます。その時には、

お母さんに

「用意して」

と言われるので、四年生になったらもうそんなことは言われないうにしたいです。

四年生で楽しみなこともあります。ぼくが一番楽しみなことはクラブ活動です。ぼくがしたいクラブはテーブルゲームクラブです。でも人数が多かったらちがうクラブに入るの、かわってもまたそのク

ラブでがんばりたいです。次に二番目に楽しみにしているのは、クラス決めです。まず先生は一年の時の担任たんにんの先生がいいです。またクラスメンバーはまだ友だちではない人と同じになって友だちになりたいです。

たいへんそうだと思うところもあります。ぼくの好きな体育でも四年生になったらバレーボールなどむずかしそうな競技けうぎがでてきます。

だから今ルールなどをしておこうと思います。そうして、すこしでもむずかしそうではなく楽しそうだなと思っていきたいです。また国語では漢字もむずかしそうで宿題もたいへんだろうと思います。でも宿題をがんばってテストで九十点以上じゅうじゅう取りたいです。

ならいなくても、四年生になるとむずかしいところもあるだろうと思います。国語ではことわざことわざなどがあってむずかしそうだなと思います。家にはことわざことわざ事ことてんがあります。だからそれを読んでよしゅう

しておきたいです。算数は大きなかけ算などがでてくるので答えをまちがえずに速くときたいです。理科はテストに出てきましたがかまかい問題が出ました。またそのような問題がでてくるかもしれないので、よくしゅうなどもしておきたいです。

\*\*\*

### 新学年になったら

麦わらぼうし(小四)

ぼくは、アメリカンフットボールを小学一年生いっねんせいのころからやっています。様々な試合しあひに出て MVPエムブイピーをとっています。MVPは長いパスを何回もとったり、ボールをもって走り、点をとったりして、勝利しょうりにこうけんできた時になるものです。てきのじん地ちにボールを運ぶのは、相手がじゃまをするなか、四回のこうげきでいかないといけない

ので、すごくむずかしいです。だからMVPになるのはかんたんでは  
ありません。ぼくは、そんなMVPを三回とったことがあります。

そんなぼくでもかなわない今の五年生は百発百中であつたり投げ  
たりするすごい人たちです。その人たちは数々の試合に勝つ人たち  
でMVPはコーチでも選べないすごく上手い人たちです。

ぼくが五年生になったら、こんな上級生と同じチームになります。  
そんな上級生とやるのは不安です。けれど、今の自分の実力がどの  
くらいなのかはやく知りたい気持ちや、上級生の上手い所をまねし  
てもっと上手くなりたいというわくわくもあります。だからいっぱい  
練習してレギュラーをとり、足をひっぱらないようにがんばっていき  
たいです。

## ◆◆ 小学五、六年生の部 ◆◆

この部では、物事の「はじまり」を伝える神話をつくるという取り組みにチャレンジしてもらいました。

身の回りのさまざまなものに目を向け、それらがどのようなして生まれたのかを考える課題。常識や科学が伝える「ほんとうのこと」からはなれ、自由に想像をふくらませるのが少し大変な取り組みでした。

それでも、みなさんそれぞれが苦心して考えた作品を、ぜひ楽しんでください。

\*\*\* \*\*

### 座るといふ動作の神話

アニ推タさん(小六)

昔から現在まで、あたりまえにしている動作「座る」。この動作は

人間だけでなく犬や猫などの動物までもがしています。そんな代表的な動作「座る」はどうやってできたかみなさんは考えたことがありますか？

太古の昔の人々は、集落で狩りや食事や遊びと、日がのぼり日くれるまで立つて生活し、暗くなると横になって寝るという日常がつづいていました。

そんなある日、「北のほうで動物たちが冬眠の準備をしているから今が狩り時だ」という情報を手にした集落がありました。その集落は高齢者が多く、食料がきれていたスー民族たちがすんでいました。スー民族は北に行くか、行かないか話し合いました。なぜなら北には白くてけむくじやらの怪物がおり、太古の人々はそれをこわがっていたからです。ですがスー民族は食料を手に入れるため行くことを決意しました。

そして次の日の朝、北を指指して出発しました。集落から北まで

2日はかかるので、旅のどちゅうの一日のおわりには、みんなが入れる小屋を作り、夜から朝になるのを寝てまっています。一日目はよかったのですが問題は2日目でした。夜みんなで作りました。その小屋はみんなが寝るには小さな物だったので、スー民族たちはどうやったらみんなが入れるか話し合いました。案としては2つ出ました。1つ目は小屋をもう1つ作るという案です。ですがこの案にたいして反対する人が多くいました。なぜなら、スー民族は夜から朝になるまではみな共にすすというおきてがあったからです。だからこの案はとり下げられました。2つ目の案では立って寝るというのが出ました。これならスペースも多くとらずに全員入ることができず。ですがこの案にも反対する人が多くいました。なぜなら高齢者が多いため立ち続けるのは困難だと思っからです。だからこの案

もとり下げられました。

みんなはこまりつかれはてしてしまったところ、走って遊んでいた小さな子供とおじいさんがぶつかり、おじいさんはおしりを地面についた状態になりました。これを見た人たちは何かひらめいたかのよう

に声を次次にあげました。なぜならおじいさんのおしりが地面についた状態なら、一人分のスペースが小さくみんな入れるし、足にも負担がかからずすむからです。小屋の中、みんなでおじいさんの真似をすると、とても簡単に若い世代から高齢者までができ、寝る時に最適な状態だったため、この夜にはみんながこの状態のまま寝ました。

次の日スー民族たちはついに来たの森に着き、クマやイノシシなどたくさん動物を狩っていききました。夕方になり、スー民族は北の森で一晩すすすことにして、えものがたくさんとれたことをいわうパー

ティーをすることにしました。パーティーではたくさんのごちそうが出てきてみんなは喜び、おなががいっぱいになるまで食べました。

その後、みんなで小屋に入りおしりを地面につけた状態で寝ようとする、草むらの方から「ガサガサツ」という音がしました。スー民族たちが全員で音がした草むらの方に近づくと、急に「ウォー」と大きな物がとび出してきました。木の枝に火をつけ近づいてみると、白くてけむくじやらの怪物がいました。怪物はスー民族たちの方にドストスと近づき、一人の男の手をにぎり「おしりを地面につける状態の名前はなんだ」とたずねました。スー民族はおどろき「名前はまだつけていません。あと、あなたはだれですか」と答えました。怪物は「実は私は北の森、北の国をおさめている神プロリアスです」と言い、スー民族たちは怪物が神プロリアス様ということにととてもおどろき、気を失いたおれてしまいました。

朝になりみんな起きると中央の方には神プロリアス様がおり、夢ではないのだと思い、何やら話したい事があるようだったので、話を聞くことにしました。プロリアスは人間がどんな生活をしているのかを観察するのが好きで、よく人間に近づいており、見つかつては怪物だとおそれられていました。そうしていつしか北の森に人間がこなくなりしました。そんな中スー民族たちが北の森に狩りをしに来たのです。かれらがおしりを地面につけた状態をプロリアス様が見てとても興味がわき、どうしても名前が知りたくてすがたを現したのだと悲しそうに話しました。そんな神プロリアス様をはげますためにスー民族は考えました。そしてスー民族たちはプロリアス様に「おしりを地面につける状態に名前をつけてください」とたのみ、プロリアスはうれしそうに名前を考え「座る」というのはどうだ」と提案しました。スー民族たちは、「座る」という言葉に賛成しプロリアス様と

共に北の森を出ていろんな集落に「座る」を教えていきました。

「座る」という動作は昔からずっと守られてきたため今でもつづいているのです。

\*\*\*

## 災害の起源

オセロ(小六)

昔、日本は天災が無かった。ある所に神さまの存在を信じない人がいた。その人は自分は大変な思いをしていたというのに神様が助けてくれなかったという理由で信じなくなったらしい。そしてその人のうわさが広まり日本の人たちの中で神様の存在を信じなくなった人が百パーセントくらいになった時に神様が自分の存在を教えるため

に二回しゃくじようで地面をたたいた。そうしたら、急に地面がうごきだし、住民はにげまどった。その光景を見た神様が面白がり、つけているうちに大きくゆれた。そして、海にいた別の神様がおどろき、おこったことにより、自分の手で波をつくり、それがだんだんと大きくなりやがて町はのみこまれてしまった。ある町の人たちは高台に上げていたので無事だった。また別の町では日のついたろうそくがたおれてしまい建物がゴウゴウと燃えあがった。

それから一日でおさまり、死者は少なかったがあととあらゆるものがダメになってしまった。あと処理がようやく終わった時に町ごとで無事たすかった人たちが話しあい、この間あったことはまとめて天からくるわざわいで「天災」と名付けられた。また、地面がゆれることは地がふるえるとかいて「地震」とつけられ、建物が燃えた時のことは火が起こした事なので「火事」とよばれた。そして大きな波がお

しよせたことはあふれ出しそうな大きな波なので「津波」とよばれることになった。「津」という字はあふれることを意味するのでそれが使われるようになった。

\*\*\*

## 西田公園の神話

かず(小六)

ぼくの家の近くに西田公園という公園がある。その公園の中に二人くらい入れるほら穴がある。いまからその由来について話す。

神の国では一、二位をあらそう強い力を持つ、スザクという、炎を司る神がいた。かれの役目は人間が炎、火を正しく使えているかを見守る役目だ。

ある日人間界を見守っているといきなり雨がふりだした。スザクのゆい一の弱点が水だ。スザクはあまやどりするために地上に降りた。ちよつと歩いてみると二人くらいは入れそうなほら穴があった。スザクはそのほら穴に入った。

スザクが入ってから十分程度か、人間界の女もあまやどりするためにほら穴に入って来た。その女は人間界の一番の美女だった。二人ともおたがいにみとれた。そして雨がやむと、スザクははずかしかったのか、光のように空の上に飛んでいった。

スザクが神の国へ帰ると一番の親友であり一番のライバルであるソウリュウに会った。ソウリュウとスザクの戦いの記録は八六七勝八六七敗六分という同等の力なのだ。

ソウリュウの役目は人間が水を正しく使えているかを見守る役目だ。

ソウリユウもその女にみとれていた。きっかけは人間界でたおれた時にその女が助けてくれたことだった。

そしてスザクとソウリユウによる、女の取り合いの戦いが始まった。

神々はそのいんねんの決着をみとけようと集まってきた。戦いははげしすぎて神の国だけではなく、人間界にもえいきようした。その戦いは二か月間にもわたった。そして、勝ったのは炎の神スザクであった。さっそくスザクはアマテラスに人間界に行くことを許してもらった。

スザクは人間界に行った。そしてスザクは告白し、はれてスザクと人間界一の美女は結けこんすることになった。

しかし神が人間と結けこんすることはゆるされていない。ツクヨミに指示された土地の神がスザクと美女を土にうめてしまった。これが

西田公園に伝わる神話だ。

しかし若松町の住民はこの神話を知らない。なぜなら、スザクと

人間が結けこんしたということを知られないようにするためアマテラスが記録を焼やきつくしたからだ。

\*\*\*

きょうりゅうのはじまり

メグ(小五)

昔々、島が一つもなかったころ、海の中では魚達が楽しくくらしていました。ところがある日、メガロザウルスというとてもきょうぼうなさがめが魚達をおそいました。それを見ていた神様が、魚達に強力な力をあたえました。

魚たちは、メガロザウルスと戦いました。勝者は魚達でした。するとメガロザウルスの体から光がはなれました。まぶしくて目をつむ

った魚達が目を開けたその時、海から次々と島が出てきました。それを見た魚達は、次から次へと島に向かつていきました。魚達はそこが気に入ったのかそこに住みつくようになりました。

それから十年後、魚達は陸で生きられるように、体、形を変えていきました。それから足がはえていき体がだんだん大きくなっていき、両せい類へとかたちをかえていきました。それから、二本足で立てるようになり口からはするどい歯がはえていきました。体からトゲトゲがはえてきたり、毛がはえてきたり、体がどんどん変化していきました。

それから十五年後、前よりみちがえるほど体がでかくなりました。きょうりゅうのたん生です。きょうりゅう達は食っては食われてのくり返してした。

それから二十年後ティラノサウルスやトリケラトプスなど大型の

きょうりゅうたちが次々と出てきました。

それをずっとみていた神様は、「このままではきょうりゅう達がどんどん変化していき地球がほろびてしまう」と考えました。そこで神様は、うちゅうからきよ大ないん石を地球に落としました。きょうりゅう達はそっぽく風に死んでしまったと言われています。